

事務文書体系の紹介 (チュートリアル)

若鳥 陸夫
日本ユニバック(株)

開放型システム間相互接続(O S I)の応用の一つとして、事務文書体系(O D A)の国際規格案が検討されている。その概要を、マイクロコンピュータ・ワークステーション・文書作成編集機(ワードプロセッサ)の視点から紹介する。この事務文書体系を応用することにより、文書交換の新時代が訪れる。

An introduction of Office Document Architecture

Rikuo WAKATORI

Nippon Univac Kaisha Ltd,

2-17-51, Akasaka, Minato-ku, Tokyo, 107, JAPAN

This paper introduces the draft international standard on office document architecture, now developed in ISO/TC97/SC18, an application of open system interconnections.

開放型システム間相互接続(O S I)の標準化の進展につれ、その応用層の研究が盛んである。その応用層の一例として、「事務文書体系」及び「事務文書交換様式(oDIF)」がある(図1)。この事務文書体系は、在来の閉域システムでの適用とは違い、広域(世界水準)での情報交換にその主務がある。また、「事務文書体系による文書処理」と「在来の文書処理」との相違は、印書の書式を含む形式の他に、規則の集合により、割付けの自動処理を可能とする点にある。コンピュータによる自動割付けのために、「論理構造」と「割付け構造」の2構造を持ち、論理構造に表現体裁や割付け体裁を作用させて、自動割付け処理を行なわせる。例えば、「原執筆者」が400字詰原稿用紙に記入した原稿が、割付けされていない「論理内容」を示しているとする、「出版社」が、その原稿に割付け指示と表現体裁を付加し、「印刷所」が、その割付けと表現体裁に基づいて、可視化するという流れを想像されたい。印刷所で刷られた割付け見本は、出版社経由で原執筆者にもどり校正が行なわれる。もし、この校正の時、原稿(論理内容)が原執筆者の手で変更されると、割付け処理を再び行なう必要がある。このような一連の作業が、コンピュータシステムにより行なわれるとする。その際、原執筆者・出版社(編集者)・印刷所の3者の間を往復しながら、原稿(論理内容)変更や割付け体裁を変更すると、自動的にそれらが文書全体に適用されることを目標としている。しかも、その一連の処理が、異システムシステムで行なえるようにしようというものである。

一方、現在普及している机上形の日本語文書作成編集機(日本語ワードプロセッサ)は、一般的に「書式付き形式」の文書を取扱い対象としている水準のものである。もし、その文書作成編集機に入力された原稿(論理内容)を、(主に手作業で)割付け処理した後に、原稿の追加・削除をすると、割付け手作業を必要とすることが多い。また、現在の「異機種文書作成編集機」間やパーソナルコンピュータ間では、通信回線を接続してところで、漢字英字混在文再現性が低い。

この国際標準化はこの文書交換の再現性を、世界規模で確保しようというものである。

1 O S I 以前と O S I 以降の情報交換

a) 閉域の情報交換

特定の系統、特定の操作系、特定の金物等による情報交換は、その系統内との情報交換には効率が良いことが多いが、他系統との情報交換には系統間変換処理を必要とする。特定の私用通信規約や内部符号系に用いての情報交換が、これに当たる。これらの規約や符号系は、金物の種類、操作系の種類、プログラム言語の種類、適用プログラムの種類、製造者などの数を乗じた数だけ存在する。これらの集合を、「在来形通信」として区別する。いわば、開放型システム間相互接続以前の形態である。

b) 開放型情報交換

コンピュータシステムの規模や地域的拡大などにつれ、異システム間の情報交換の要求が高まり、その実現には特定な製造者だけでは不可能であることから、世界のコンピュータ製造者・軟件製造者などが、国際標準化機構（ISO）に集合し、開放型システム間相互接続の国際規格化に着手し、その下位5層はここ1～2年で、国際規格として制定される状態にある。

しかし、この開放型システム間相互接続の「表現層」と「応用層」の規格がないと、末端相互のデータの授受やデータの再現性を保証しえない。

そこで、その「応用層」の一つとして、「メッセージ指向文書交換系（略称：MOTIS）」の国際規格案ができ上がっている。本稿の主題である「事務文書体系（略称：ODA）」は、その「メッセージ指向文書交換系」の「封筒」に入れる文章、つまり交換文書の文書構造規則の集合である。言い換えれば、MOTISの封筒に入出力するデータ構造やデータ形式を定めて、送信側の文書構造を受信側で再現できるようにしている。「手紙の書き方」や「手紙の読み方」を定めているとも見なされる（図2）。

2 事務文書体系 (Office Document Architecture)

a) 処理

事務文書体系は、次の3つの処理を経由して、各々の処理間で情報交換されると考える（図3）。

「編集処理」は、元の文書を基に文章を挿入・削除して、新文書とするか、全く新規な文書を作成する過程である。ここでは文章の章立てや内容などの論理構造が、その編集処理の主体である。

「割付け処理」は、物理的な出力媒体（たとえば紙）を想定して、ページに割り付ける工程である。

ここでは、ページに割付ける他に、文章中の書体の決定、活字寸法決定、文字間隔決定、行間隔決定などを行ない、それらに必要なパラメタを設定する。この工程は、出版社での編集作業の後部に近似している。この工程の出力は、特定割付け構造になっており、文書割付け根→ページ集合→ページ→枠→区画（内容体系）という樹を構成している。また、基本的な割付け対象体である区画の中は、文字列や機能符号列の混合したものになっている。

「可視化処理」は、印刷用紙の現物大に割付けを行ない、書体種類・活字寸法の指定に従い、機能符号の解釈・実行を行ない、印刷物としての外見を整え、人間の知覚できる形式で出力する工程である。

b) 形式

前述の処理の可能性に応じて、3段階の文書体系水準がある。すなわち、「書式付形式」・「処理可能形式」・「書式付処理可能形式」である。

「書式付き形式」は、原作者の意図する表現の文書になった形式であり、テレ

テックス水準の文書が、これに相当する。送信者が受信者側の表現を想定し、割り付けられており、受信者側で自動編集などを行うことができない。この形式には、「文書概要」・「特定割り付け構造」を含む。「共通割り付け構造」・「表現体裁」を含めてもよい。

「処理可能形式」は、その文書が処理（編集、書式付け）できる形式である。この形式の文書は、「文書概要」と「特定論理構造」とを含み、「共通論理構造」・「割り付け体裁」・「表現体裁」を含むことがある。論理構造を含むのが特徴である。「書式付き処理可能形式」は、前2者のすべてを含み、原作者の意図通りの割り付け情報を含みながら処理もできる形式である。この水準の文書には、「文書概要」・「特定論理構造」・「特定割り付け構造」を含み、「共通論理構造」・「共通割り付け構造」・「割り付け体裁」・「表現体裁」を含めてもよい。

c) 文書構造

文章は、章立て・内容などの「論理構造」とページや枠・区画といった「割り付け構造」の2側面から捉えられる（図4）。

「論理構造」は、文書中の内容面を表わしており、章・節・項・号の構成や図と文章の関係などページの境界に無関係な構造である。また、別な言い方をすれば、文書から割り付け情報を無くした状態が論理構造である。この構造には、テンプレートに相当する「共通論理構造」と特定の文書を想定した「特定論理構造」とがある。「割り付け構造」は、ページ内の「基本割り付け区画」を最小単位として、文章を「割り付け根」・「ページ集合」・「ページ」に、さらにページ内を「枠」、枠の中を「区画」とし、それらの割り付け位置や寸法を持ち、論理内容をページという外枠に割り付けた構造をしている。割り付け構造には、テンプレートに相当する「共通割り付け構造」と特定の文書を割り付けた「特定割り付け構造」とがある。

これらの2構造を図示すると、図5のようになる。

3 事務文書交換様式

メッセージ指向文書交換系または貯蔵媒体による情報交換のためのデータ列として、「事務文書交換様式 (office document interchange format) が定められており、国際間及び日本国内での異系統の情報交換を有効なものにしようとしている。日本語文章の体系も国際標準化機構の符号拡張法 (ISO 2022) に含有されている。日本語での情報交換用符号系は、JISC6220-1976 (8単位)、情報交換用漢文字符号系は、JISC6226-1983、または、テレックスやテレテックス文字集合など国際間で規定のある符号系に限定される。特定コンピュータの内部符号系、特定操作系の内部符号系、特定文章作成編集機の内部符号系などでの交換は許されない。何故ならば、開放型システム間での文書の再現性を保つのが本来の目的だからである。内部処理をこの形式を保って行なうとは規定していない。

a) M O T I S 経路で伝送するデータ列

メッセージ指向文書交換系の適用符号属性を，'oD I F'に設定すれば，その封筒の内容は，「事務文書交換様式」の指定となる。封筒内部は「文書概要」と「文書本体」からなっている。「文書概要」は，その文書の再現や管理に必要な情報からなり，「符号系」・「文書表題」・「作成者」・「作成日時」・「配布先」などを含有する。また，「文書本体」は後述する順序で文書構造データ列となる。メッセージ指向文書交換系の封筒に入れるデータ形式は，「抽象文記法1（略称：A S N . 1）の目的符号によることになっているので，「識別子」・「長さ記述子」・「データ」という入れ子構造となる。

図6に，「共通割付け構造」・「共通論理構造」・「特定論理構造」からなるデータ列見本を示す。

b) データ列

データ列は，次の順序で送受信することになっている。

- ① 文書概要（必須）
- ② 割付け対象体クラス記述子及び関係する文書単位
- ③ 論理対象体クラス記述子及び関係する文書単位
- ④ 表現体裁記述子
- ⑤ 割付け体裁記述子
- ⑥ 論理対象体記述子及び関係する文書単位

c) データ列の種類

データ列の種類は，データ列A1・データ列A2・データ列B1・データ列B2の4通りがある。

- (1) データ列A1：「文書概要」・「論理対象体」と「割付け対象体」を含み，「標準汎用化言語部」のない形式
- (2) データ列A2：「文書概要」と「標準汎用化言語部」とからなる形式
- (3) データ列B1：「文書概要」・「割付け対象体」・「割付け対象体クラス」・「表現体裁」・「文章単位」からなる形式
- (4) データ列B2：「文書概要」・「論理対象体」・「論理対象体クラス」・「割付け対象体クラス」・「表現体裁」・「割付け体裁」・「文書単位」からなる形式

データ列A群は，論理構造と割付け構造を共に含有し，データB群は，そのいずれか片方しかない形式である。

4 国際規格の動向

a) 事務文書体系：I S O D I S 8 6 1 3 / 1 . . 6 の状況

I S O / T C 9 7 / S C 1 8 は次の場所で総会を開催し，今年は6年目を迎えた。

1 9 8 1 年 オタワ，カナダ国

1982年	ロンドン，英国
1983年	パリ，仏国
1984年	ベルリン，西独国
1985年	ワシントンD.C.，米国
1986年	東京，日本国
(1987年	コペンハーゲン，デンマーク国)

現在，DIS 8613は1986年3月締切りで，国際投票中である。日本国は情報処理学会情報規格調査会SC18専門委員会で対応している。現在のところ，1988年中に国際規格とする予定である。

b) 日本国通商産業省工業技術院はJIS化を調査検討中

日本規格協会情報技術標準化研究センター「テキスト交換調査研究委員会」で，日本工業規格案の作成を目標に，動向調査中である。ISOが国際規格となった時点で，JISの制定が行なわれる予定である。

c) DP 8613 / 7 ラスタ図形内容体系

デジタルファクシミリの符号体系の取り込み，ファクシミリとのデータ交換用である。

d) DP 8613 / 8 幾何学的図形内容体系

ISO / TC 97 / SC 21 / WG 2で検討中のコンピュータ図形の国際規格による図形の取り込みなどを検討している。

e) 共通事務文書体系の開発

情報処理業界を母体としたISO / TC 97 / SC 18が従前より検討していた，「事務文書体系」及び「事務文書交換様式」と，印刷業界を母体としたSC 18 / WG 8の持ち込んだ「標準汎用化言語部」と一本化した拡張形事務文書体系が考えられ始めた。これは，1988年より後に，具体化する予定である。

5 あとがき

開放型システム間相互接続時代に呼応した，広域の情報交換のための「事務文書体系」を概説した。この体系によれば，広範囲の世界で日本語を含めた情報交換の可能性が高まると予想される。ひいては，将来のコンピュータ・文章作成編集機・パーソナルコンピュータ・ファクシミリ・複写機などの共通基本要素となるであろう。

6 謝辞

筆者が，本件に関し有益な助言をいただいているISO / TC 97 / SC 18米・英・仏・独・加・蘭・伊の各国委員，情報処理学会情報規格調査会SC 18専門委員会，日本規格協会テキスト交換システム調査研究委員会の各委員，また，日頃から後方支援をいただいている日本ユニパック(株)技術研究部各位に心より感謝致します。

参考文献

- (1) 日本規格協会情報技術標準化センター；”システムソフトウェアの標準化に関する調査研究（テキスト交換システム）報告書，昭和61年3月
- (2) ISO DIS8613/1 Information Processing Text and Office systems - Office document architecture(ODA) and interchange format
 - Part1 : General Introduction
- (3) ISO DIS8613/2 表題頭部略
 - Part2 : Document Structure
- (4) ISO DIS8613/3 表題頭部略
 - Part3 : Document Processing Reference Model
- (5) ISO DIS8613/4 表題頭部略
 - Part4 : Document Profile
- (6) ISO DIS8613/5 : 表題頭部略
 - Part5 : Office Document International Format
- (7) ISO DIS8613/6 : 表題頭部略
 - Part6 : Character Content Architecture

- 以上 -

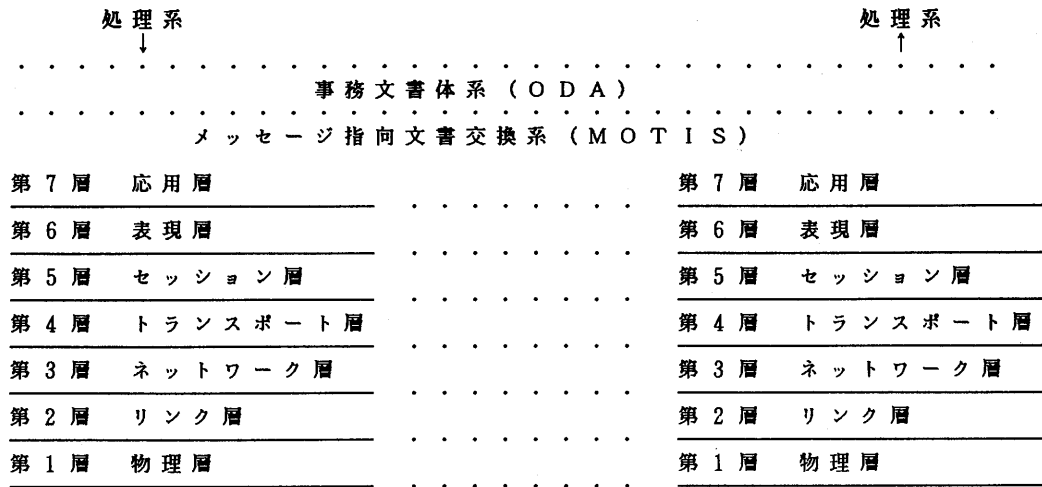


図1 OSIとODAの関係
Figure 1 Relationship between OSI and ODA

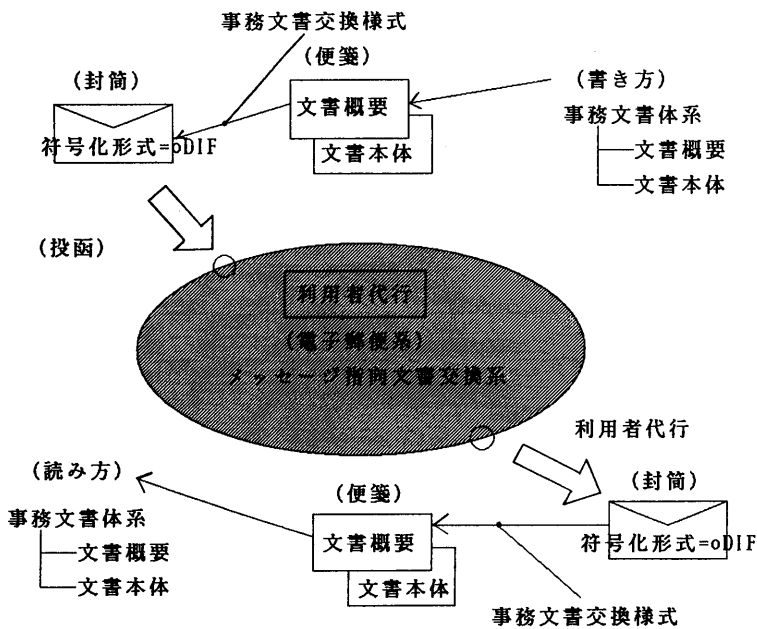
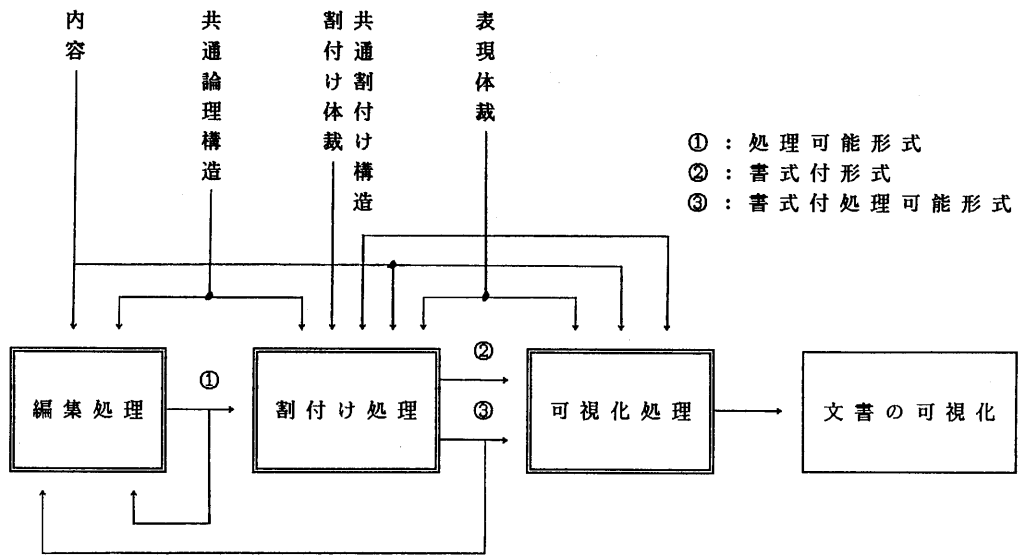


図2 事務文書体系とメッセージ指向文書交換系
Figure 2 Relationship between MOTIS and ODA



原作者	出版所	印刷所
文書作成編集, 割付け要望注文, 書体要望注文, 活字寸法要望, 章立て, 内容,	ページに割付け, 書体決定, 活字寸法決定, 図版組入れ指定, 色彩指定	原寸大に印刷, 書体, 活字寸法, 機能符号再現,

図3 事務文書体系の処理モデル
 Figure 3 Process model of office document architecture

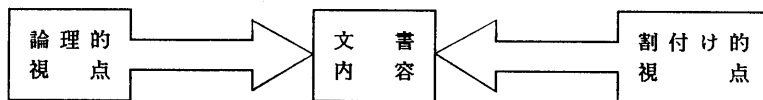


図4 文書の見方
 Figure 4 View of document

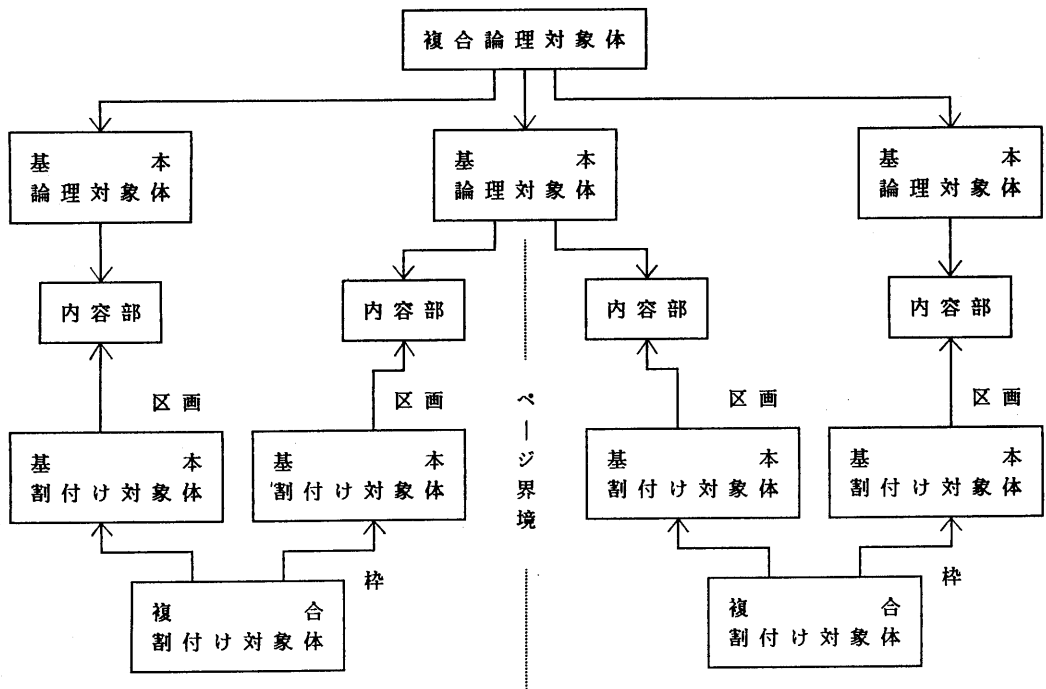


図5 論理対象体割付け対象体の関係

Figure 5 Example of relationship between logical and layout object

図 6 事務文書交換様式データ列見本

Date : 1896-11-21
 Author : 若鳥陸夫
 Revision: 2.2
 File Id.: ODIFLOG.LTR

 --事務書簡の展開--

 --共通論理構造・共通割付け構造・特定論理構造--

- 備考: (1) 本見本は、書簡用の共通論理構造と共通割付け構造を予め作成しておき、使用者が「ある特定の送り状」を特定論理構造として入力したと想定し、その事務文書交換様式ファイルを解析したと考える。
 (2) ビット組合せは、16進表記法により示すが、図形文字及び制御符号間隔(SP)は例外として、16進表示にしないで図形文字のまま示す。
 (3) 終止符に囲まれた語は予約語を表し、記号"--"は注釈を表す。
 (4) 符号系はJISC6220(76)情報交換用符号系(8単位)及びJISC6226(83)情報交換用漢字符号系を使う例を示す。すなわち、JIS漢字指定エスケープ-ESC-\$-B、6220指定はESC-(Jによる。また、漢字モードでも機能符号および間隔および抹消は送信・受信できるとする。
 (5) 片仮名はJISC6226(83)によることとし、JISC6220の片仮名を使用していない。
 (6) ここでの長さ記述は単に見本であり、その値は正確ではない。
 (7) 共通論理構造と共通割付け構造は、次のように設計されている。

共通論理対象根	共通論理対象体	割付け体裁	利用者可視名	共通割付け対象体	
2	2000	40	宛先_団体名	000	
	2001	41	宛先_役名及び氏名	001	
	201	42	日付	01	
	202	2020	43	発信者_団体名	020
		2021	44	発信者_氏名	021
	203	2030	45	本体部_頭書	030
		2031	46	本体部_本体	031
		2032	47	本体部_結語	032
	204	2040	48	付属文_頭書	040
		2041	49	付属文_本文	041
		2042	410	付属文_結語	042

データ列見本

事務文書交換様式	抽象構文記法 (ASN.1) による意味	
符号列 (16進表記法)	原始プログラム	注釈
A049	{	
800130	<文書概要> {	--長さ- bytes.
840132	<共通割付け構造> "0"	--共通割付け構造.
850133	<共通論理構造> "2"	--共通論理構造.
860135	<特定論理構造> "3"	--特定論理構造.
870134	<表現体裁> "5".	
A22C	<割付け体裁> "4".	
800102	<文書特性> {	
810115	<適用概要> {group-4-facsimile}.	
A51B	<文書体系水準> {pda-5} --処理可能形式文書体系.	
A007	<内容体系> {	
060540C325060D	<文字内容体系> {	
860100	cp-3	--国際規格8613/6}}.
870101	<交換様式水準> {if-a1}	
8806 "860601"	<文書概要水準> {dp-1}	--文書概要形式1.
A242	<O D A 版日付> "860601".	
	<非基本文書特性> {	--長さ- 66 bytes.

85071B2442201B284A <概要文字集合> ESC \$ B. ESC (J.
81071B2442201B284A <注釈文字集合> ESC \$ B. ESC (J.
80071B2442201B284A <内容文字集合> ESC \$ B. ESC (J).
A20526C02036CE <ページ寸法> {9920, 14030} --ISO A4.
A41E <混合表現属性> { --長さ = 30 bytes.
800100 <列方位> 0 --左から右.
810100 <行方位> 0 --上から下.
820100 <文字方位> 0 --通常.
850103 <文字間隔> 3 --4. 23 mm.
860100 <行間隔> 0 --4. 23 mm = 6LPI.
870100 <位置あわせ> 0 --開始位置あわせ.
A382015C <文書管理属性> { --長さ = 348 bytes.
A710 <文書記述体> {
800E1B2442"事務書簡"1B284A <表題> "事務書簡".
820C1B2442"送り状"1B284A <文書種別> "送り状".
840B "VERSION 2.1" <版数> "VERSION 2.1".
8011"86-11-21-13:00:00" <日時> "86-11-21-13:00:00".
A122 <原作者> { --長さ = 34 bytes.
801A1B2442"日本ユニパック (株)"1B284A<組織名> "日本ユニパック (株)".
830E1B2442"若島陸夫"1B284A <著者> "若島陸夫".
A24D <その他利用者情報> { --長さ = 77 bytes.
8411"86-03-10-13:30:00" <著作権日> "86-03-10-13:30:00".
810E1B2442"承認済み"1B284A <状態> "承認済み".
82281B2442" (社) 情報処理学会"1B284A <配布先> " (社) 情報処理学会".
A32E <外部参照> { --長さ = 30 bytes.
801C "ISO/DIS 8824. 8825" <他文書参照> "ISO/DIS 8824. 8825".
A44E <ファイル及び検索> { --長さ = 78 bytes.
8320 "OFFICE DOCUMENT ARCHITECTURE. ODA" <キーワード> "ODA".
8411 "ISO DP8613/1 TO 6" <文書参照> "DP8613/1 TO 6".
850A "DP8613. LTR" <局所ファイル参照> "DP8613. LTR".
A52A <内容属性> { --長さ = 42 bytes.
8105 "20000" <長さ> "20000" --20KB.
820101 <ページ数> 1 --1ページ.
8408 "Japanese" <言語> "Japanese".
A628 <機密属性> { --長さ = 40 bytes.
800C1B2442"承認済"1B284A <承認> "承認済".
810A1B2442"公開"1B284A <機密種別> "公開".
820C1B2442"発信者"1B284A <アクセス権> "発信者" } } }.
A124 <割付け対象体クラス> { --共通割付け構造.
020100 <対象体種別> <文書割付け根>.
3108 <記述子本体> { --長さ = 8 bytes.
410130 <対象体クラス識別子> "0".
A214 <従属生成構造式>
A012 <順序構成子> {
A005 <必要構築因子> --長さ = 5 bytes.
4103302030 <対象体クラス識別子> "0 0".
A009 <必要構築因子> --長さ = 9 bytes.
A007 <順序構成子> {
A205 <繰返し構築因子>
4103302031 <対象体クラス識別子> "0 1" } }.
8E0606 <利用者可視名> "書簡" } } }.
A13B <割付け対象体クラス> { --長さ = 27 bytes.
020102 <対象体種別> <ページ>.
3136 <記述子本体> { --長さ = 22 bytes.
4103302030 <対象体クラス識別子> "0 0".
A22F <従属生成構造式>
A02D <順序構成子> {
A007 <必要構築因子>
41053020302030 <対象体クラス識別子> "0 0 0".
A007 <必要構築因子>
41053020302031 <対象体クラス識別子> "0 0 1".

A007 <必要構築因子>
41053020302032 <対象体クラス識別子> "0 0 2".
A007 <必要構築因子>
41053020302033 <対象体クラス識別子> "0 0 3".
A007 <必要構築因子>
41053020302034 <対象体クラス識別子> "0 0 4".
A40880020E1080020258 <寸法> {3600, 600}.
8E0A1B2442"宛先"1B284A <利用者可視名> "宛先"}.
A135 <割付け対象体クラス> { --長さ-51 bytes.
020104 <対象体種別> <区画>.
312E <記述子本体> { --長さ-46 bytes.
41053020302030 <対象識別子> "0 0 0".
A103120130 <内容部群> {"0"},
A3088002000080020000 <位置> { 0, 0}.
A40880020E10800200C8 <寸法> {3600, 200}.
9103352035 <表現体裁> "5 5".
8E0C1B2442宛先_団体名1B284A<利用者可視名> "宛先_団体名"}.
A13B <割付け対象体クラス> { --長さ-59 bytes.
020104 <対象体種別> <区画>.
3136 <記述子本体> { --長さ-54 bytes.
41053020302031 <対象体識別子> "0 0 1".
A103120130 <内容部群> {"0"},
A3088002000080020190 <位置> { 0, 400}.
A40880020E10800201C8 <寸法> {3600, 200}.
8E121B2442宛先_役名及び氏名1B284A<利用者可視名> "宛先_役名及び氏名"}.
A131 <割付け対象体クラス> { --長さ-49 bytes.
020104 <対象体種別> <区画>.
312C <記述子本体> { --長さ-44 bytes.
4103302031 <対象体識別子> "0 1".
A103120130 <内容部群> {"0"},
A30880021770800204B0 <位置> {6000, 1200}.
A40880020A50800201C8 <寸法> {2640, 200}.
8E0A1B2442"日付"1B284A <利用者可視名> "日付け"}.
A134 <割付け対象体クラス> { --長さ-51 bytes.
020103 <対象体種別> <枠>.
312F <記述子本体> { --長さ-47 bytes.
4103302032 <対象体識別子> "0 2".
A22F <従属生成構造式>
A02D <順序構成子> {
A007 <必要構築因子>
41053020322030 <対象体クラス識別子> "0 2 0".
A007 <必要構築因子>
41053020322031 <対象体クラス識別子> "0 2 1".
A3088002161080020780 <位置> {5760, 1800}.
A40880020BB8800203E8 <寸法> {3000, 1000}.
8E0C1B2442発信者1B284A <利用者可視名> "発信者"}.
A137 <割付け対象体クラス> { --長さ-55 bytes.
020101 <対象体種別> <区画>.
3132 <記述子本体> { --長さ-50 bytes.
41053020322030 <対象体識別子> "0 2 0".
A103120130 <内容部群> {"0"},
A306800130800130 <位置> { 0, 0}.
A40780020BB88001C8 <寸法> {3000, 200}.
8E0C1B2442発信者_団体名1B284A <利用者可視名> "発信者_団体名"}.
A133 <割付け対象体クラス> { --長さ-51 bytes.
020104 <対象体種別> <区画>.
312E <記述子本体> { --長さ-46 bytes.
41053020322031 <対象体識別子> "0 2 1".
A103120130 <内容部群> {"0"},
A3088002000080020258 <位置> { 0, 600}.
A40880020780800201C8 <寸法> {1920, 200}.

```

8E0A1B2442発信者_氏名1B284A <利用者可視名> "発信者_氏名"},
A13F <割付け対象体クラス> { --長さ-63 bytes.
020103 <対象体種別> <枠>.
313A <記述子本体> { --長さ-58 bytes.
4103302033 <対象体識別子> "0 3".
A22F <従属生成構造式>
A02D <順序構成子> {
A007 <必要構築因子>
41053020332030 <対象体クラス識別子> "0 3 0".
A007 <必要構築因子>
41053020332031 <対象体クラス識別子> "0 3 1".
A007 <必要構築因子>
41053020332032 <対象体クラス識別子> "0 3 2".
A308800204B080020BB8 <位置> {1200. 3000}.
A408800222B080020BB8 <寸法> {8880. 1200}.
8E101B2442本体部1B284A <利用者可視名> "本体部"},
A133 <割付け対象体クラス> { --長さ-51 bytes.
020104 <対象体種別> <区画>.
312E <記述子本体> { --長さ-46 bytes.
41053020332030 <対象体識別子> "0 3 0".
A103120130 <内容部群> {"0"}.
A30880020000800201C8 <位置> { 0. 200}.
A408800222B0800201C8 <寸法> {8880. 200}.
8E0A1B2442本体部_頭書1B284A <利用者可視名> "本体部_頭書"},
A129 <割付け対象体クラス> { --長さ-41 bytes.
020104 <対象体種別> <区画>.
3124 <記述子本体> { --長さ-36 bytes.
41053020332031 <対象体識別子> "0 3 1".
A103120130 <内容部群> {"0"}.
A3088002000080020258 <位置> { 0. 600}.
A408800222B080020190 <寸法> {8880. 400}.
8E0A1B2442本体部_本体1B284A <利用者可視名> "本体部_本体"},
A139 <割付け対象体クラス> { --長さ-41 bytes.
020104 <対象体種別> <区画>.
3124 <記述子本体> { --長さ-36 bytes.
41053020332032 <対象体識別子> "0 3 2".
A103120130 <内容部群> {"0"}.
A30880021EF0800204B0 <位置> {7920. 1200}.
A40880020320800200C8 <寸法> { 800. 200}.
8E0A1B2442本体部_結語1B284A <利用者可視名> "本体部_結語"},
A138 <割付け対象体クラス> { --長さ-56 bytes.
020103 <対象体種別> <枠>.
3132 <記述子本体> { --長さ-50 bytes.
4103302034 <対象体識別子> "0 4".
A22F <従属生成構造式>
A02D <順序構成子> {
A007 <必要構築因子>
41053020342030 <対象体クラス識別子> "0 4 0".
A007 <必要構築因子>
41053020342031 <対象体クラス識別子> "0 4 1".
A007 <必要構築因子>
41053020342032 <対象体クラス識別子> "0 4 2".
A308800204B0800211F8 <位置> {1200. 4600}.
A408800222B0800207D0 <寸法> {8880. 2000}.
8E0A1B2442付属文1B284A <利用者可視名> "付属文"},
A133 <割付け対象体クラス> { --長さ-51 bytes.
020104 <対象体種別> <区画>.
312E <記述子本体> { --長さ-46 bytes.
80053020342030 <対象体識別子> "0 4 0".
A103120130 <内容部群> {"0"}.
A30880021C2080020000 <位置> {7200. 0}.

```

A408800200F0800200C8 <寸法> { 240, 200},
8E0A1B2442付属文_頭書1B284A <利用者可視名> "付属文_頭書"},
A13B <割付け対象体クラス> { --長さ=43 bytes.
020104 <対象体種別> <区画>,
3126 <記述子本体> { --長さ=38 bytes.
41053020342031 <対象体識別子> "0 4 1".
A103120130 <内容部群> {"0"},
A30880020000800203E8 <位置> { 0, 1000},
A408800222B080020258 <寸法> {8880, 600},
880A1B2442付属文_本文1B284A <利用者可視名> "付属文_本文"},
A12D <割付け対象体クラス> { --長さ=45 bytes.
020104 <対象体種別> <区画>,
3129 <記述子本体> { --長さ=41 bytes.
41053020342032 <対象体識別子> "0 4 2".
A103120130 <内容部群> {"0"},
A30880021EF0800207D0 <位置> {7920, 2000},
A40880020320800200C8 <寸法> { 800, 200},
8E0A1B2442付属文_結語1B284A <利用者可視名> "付属文_結語"}},

A524 <論理対象体クラス> { --共通論理構造,
020100 <対象体種別> <文書論理根>,
3108 <記述子本体> { --長さ= 8 bytes.
410132 <対象体クラス識別子> "2".
A214 <従属生成構形式>
A012 <順序構成子> {
A005 <必要構築因子> --長さ= 5 bytes
4103202030 <対象体クラス識別子> "2 0"},
8E0606 <利用者可視名> "書簡"}},
A53B <論理対象体クラス> { --長さ= 27 bytes.
020102 <対象体種別> <ページ>,
3136 <記述子本体> { --長さ= 22 bytes.
4103202030 <対象体識別子> "2 0".
A22F <従属生成構形式>
A02D <順序構成子> {
A205 <必要構築因子>
41032020302030 <対象体クラス識別子> "2 0 0".
A205 <必要構築因子>
41032020302031 <対象体クラス識別子> "2 0 1".
A205 <必要構築因子>
41032020302032 <対象体クラス識別子> "2 0 2".
A205 <必要構築因子>
41032020302033 <対象体クラス識別子> "2 0 3".
A205 <必要構築因子>
41032020302034 <対象体クラス識別子> "2 0 4".
8E0606 <利用者可視名> "書簡"}},
A532 <論理対象体クラス> { --長さ= 50 bytes.
020103 <対象体種別> <複合論理対象体>,
312F <記述子本体> { --長さ= 47 bytes.
41053220302030 <対象識別子> "2 0 0".
A22F <従属生成構造式>
A02D <順序構成子> {
A007 <必要構築因子>
410732203020302030 <対象体クラス識別子> "2 0 0 0".
A007 <必要構築因子>
410732203020302031 <対象体クラス識別子> "2 0 0 1".
8E0A1B2442"宛先"1B284A <利用者可視名> "宛先"}},
A533 <論理対象体クラス> { --長さ=51 bytes.
020104 <対象体種別> <基本論理対象体>,
312E <記述子本体> { --長さ=46 bytes.
410732203020302030 <対象体識別子> "2 0 0 0".
8603350230 <表現体裁> "5 0".

9303342030 <割付け体裁> "4 0",
 8E0C1B2442宛先_団体名 1B284A <利用者可視名> "宛先_団体名"}},
 A53B <論理対象体クラス> { --長さ=59 bytes.
 020104 <対象体種別> <基本論理対象体>,
 3136 <記述子本体> { --長さ=54 bytes.
 410732203020302031 <対象体識別子> "2 0 0 1",
 8603350230 <表現体裁> "5 0",
 9303342031 <割付け体裁> "4 1",
 8E121B2442宛先_役名及び氏名 1B284A <利用者可視名> "宛先_役名及び氏名"}},
 A531 <論理対象体クラス> { --長さ=49 bytes.
 020104 <対象体種別> <基本論理対象体>,
 312C <記述子本体> { --長さ=44 bytes.
 41053220302031 <対象体識別子> "2 0 1",
 8603350231 <表現体裁> "5 1",
 9303342032 <割付け体裁> "4 2",
 8E0A1B2442"日付" 1B284A <利用者可視名> "日付け"}},
 A534 <論理対象体クラス> { --長さ=51 bytes.
 020103 <対象体種別> <複合論理対象体>,
 312F <記述子本体> { --長さ=47 bytes.
 41032120302032 <対象体識別子> "2 0 2",
 A22F <従属生成構造式>
 A02D <順序構成子> {
 A007 <必要構築因子>
 410732203020322030 <対象体クラス識別子> "2 0 2 0",
 A007 <必要構築因子>
 410732203020322031 <対象体クラス識別子> "2 0 2 1"}},
 8E0C1B2442発信者 1B284A <利用者可視名> "発信者"}},
 A537 <論理対象体クラス> { --長さ=55 bytes.
 020101 <対象体種別> <基本論理対象体>,
 3132 <記述子本体> { --長さ=50 bytes.
 410C312031201230201232201230 <対象体識別子> "2 0 2 0",
 8603350231 <表現体裁> "5 1",
 9303342033 <割付け体裁> "4 3",
 8E0C1B2442発信者_団体名 1B284A <利用者可視名> "発信者_団体名"}},
 A533 <論理対象体クラス> { --長さ=51 bytes.
 020104 <対象体種別> <基本論理対象体>,
 312E <記述子本体> { --長さ=46 bytes.
 410731203020322031 <対象体識別子> "2 0 2 1",
 8603350231 <表現体裁> "5 1",
 9303342034 <割付け体裁> "4 4",
 8E0A1B2442発信者_氏名 1B284A <利用者可視名> "発信者_氏名"}},
 A53F <論理対象体クラス> { --長さ=63 bytes.
 020103 <対象体種別> <複合論理対象体>,
 313A <記述子本体> { --長さ=58 bytes.
 41053220302033 <対象体識別子> "2 0 3",
 A22F <従属生成構造式>
 A02D <順序構成子> {
 A007 <必要構築因子>
 410732203020332030 <対象体クラス識別子> "2 0 3 0",
 A007 <必要構築因子>
 410732203020332031 <対象体クラス識別子> "2 0 3 1",
 A007 <必要構築因子>
 410732203020332031 <対象体クラス識別子> "2 0 3 2"}},
 8E101B2442本体部 1B284A <利用者可視名> "本体部"}},
 A533 <論理対象体クラス> { --長さ=51 bytes.
 020104 <対象体種別> <基本論理対象体>,
 312E <記述子本体> { --長さ=46 bytes.
 410732203020332030 <対象体識別子> "2 0 3 0",
 8603350232 <表現体裁> "5 2",
 9303342035 <割付け体裁> "4 5",
 8E0A1B2442本体部_頭書 1B284A <利用者可視名> "本体部_頭書"}},

A529	<論理対象体クラス> {	--長さ-41 bytes.
020104	<対象体種別> <基本論理対象体>.	
3124	<記述子本体> {	--長さ-36 bytes.
410732203020332031	<対象体識別子> "2 0 3 1".	
8603350230	<表現体裁> "5 0".	
9303342036	<割付け体裁> "4 6".	
8E0A1B2442本体部_本体1B284A	<利用者可視名> "本体部_本体"}.	
A539	<論理対象体クラス> {	--長さ-41 bytes.
020104	<対象体種別> <基本論理対象体>.	
3124	<記述子本体> {	--長さ-36 bytes.
410732203020332032	<対象体識別子> "2 0 3 2".	
8603350231	<表現体裁> "5 1".	
9303342037	<割付け体裁> "4 7".	
8E0A1B2442本体部_結語1B284A	<利用者可視名> "本体部_結語"}.	
A538	<論理対象体クラス> {	--長さ-56 bytes.
020103	<対象体種別> <複合論理対象体>.	
3132	<記述子本体> {	--長さ-50 bytes.
41053220302034	<対象体識別子> "2 0 4".	
A22F	<従属生成構造式>	
A02D	<順序構成子> {	
A007	<必要構築因子>	
410732203020342030	<対象体クラス識別子> "2 0 4 0".	
A007	<必要構築因子>	
410732203020342031	<対象体クラス識別子> "2 0 4 1".	
A007	<必要構築因子>	
410732203020342031	<対象体クラス識別子> "2 0 4 2".	
8E0A1B2442付属文1B284A	<利用者可視名> "付属文"}.	
A533	<論理対象体クラス> {	--長さ-51 bytes.
020104	<対象体種別> <基本論理対象体>.	
312E	<記述子本体> {	--長さ-46 bytes.
800732203020342030	<対象体識別子> "2 0 4 0".	
8603350230	<表現体裁> "5 0".	
9303342038	<割付け体裁> "4 8".	
8E0A1B2442付属文_頭書1B284A	<利用者可視名> "付属文_頭書"}.	
A53B	<論理対象体クラス> {	--長さ-43 bytes.
020104	<対象体種別> <基本論理対象体>.	
3126	<記述子本体> {	--長さ-38 bytes.
410732203020342031	<対象体識別子> "2 0 4 1".	
8603350230	<表現体裁> "5 0".	
9303342039	<割付け体裁> "4 9".	
8E0A1B2442付属文_本文1B284A	<利用者可視名> "付属文_本文"}.	
A52D	<論理対象体クラス> {	--長さ-45 bytes.
020104	<対象体種別> <基本論理対象体>.	
3129	<記述子本体> {	--長さ-41 bytes.
410732203020342032	<対象体識別子> "2 0 4 2".	
8603350232	<表現体裁> "5 2".	
93033420312030	<割付け体裁> "4 1 0".	
8E0A1B2442付属文_結語1B284A	<利用者可視名> "付属文_結語"}.	
A710	<表現体裁> {	
4503352030	<体裁識別子> "5 0".	
A306	<表現属性> {	
A004	<文字属性> {	
8702012C	<行間隔> 300}}.	
A710	<表現体裁> {	
4503352031	<体裁識別子> "5 1".	
A306	<表現属性> {	
A004	<文字属性> {	
xxxx	<右寄せ>.	
8702012C	<行間隔> 300}}.	
A710	<表現体裁> {	
4503352032	<体裁識別子> "5 2".	

```

A306      <表現属性> {
A004      <文字属性> {
xxxx      <中央寄せ> ,
8702012C <行間隔> 300}}},
A818      <割付け体裁> {
4503342030 <体裁識別子> "4 0",
A411      <割付け指示> {
8B053020302030 <割付け対象体クラス> "0 0 0"}},
A818      <割付け体裁> {
4503342031 <体裁識別子> "4 1",
A411      <割付け指示> {
8B053020302031 <割付け対象体クラス> "0 0 1"}},
A818      <割付け体裁> {
4503342032 <体裁識別子> "4 2",
A411      <割付け指示> {
8B05302031 <割付け対象体クラス> "0 1"}},
A818      <割付け体裁> {
4503342033 <体裁識別子> "4 3",
A411      <割付け指示> {
8B053020322030 <割付け対象体クラス> "0 2 0"}},
A818      <割付け体裁> {
4503342034 <体裁識別子> "4 4",
A411      <割付け指示> {
8B053020322031 <割付け対象体クラス> "0 2 1"}},
A818      <割付け体裁> {
4503342035 <体裁識別子> "4 5",
A411      <割付け指示> {
8B053020332030 <割付け対象体クラス> "0 3 0"}},
A818      <割付け体裁> {
4503342036 <体裁識別子> "4 6",
A411      <割付け指示> {
8B053020332031 <割付け対象体クラス> "0 3 1"}},
A818      <割付け体裁> {
4503342037 <体裁識別子> "4 7",
A411      <割付け指示> {
8B053020332032 <割付け対象体クラス> "0 3 2"}},
A818      <割付け体裁> {
4503342038 <体裁識別子> "4 8",
A411      <割付け指示> {
8B053020342030 <割付け対象体クラス> "0 4 0"}},
A818      <割付け体裁> {
4503342039 <体裁識別子> "4 9",
A411      <割付け指示> {
8B053020342031 <割付け対象体クラス> "0 4 1"}},
A818      <割付け体裁> {
45033420312030 <体裁識別子> "4 1 0",
A411      <割付け指示> {
8B053020342032 <割付け対象体クラス> "0 4 2"}},

A624      <論理対象体> {
020100    <対象体種別> <文書論理根>,          --特定論理構造,
3108      <記述子本体> {                      --長さ = 8 bytes,
410133    <対象体識別子> "3",
A00130    <従属子> "0",
820132    <対象体クラス> "2"},
8E0606    <利用者可視名> "書簡"}},
A63B      <論理対象体> {                      --長さ = 27 bytes,
020102    <対象体種別> <<ページ>,
3136      <記述子本体> {                      --長さ = 22 bytes,
4103302030 <対象体識別子> "3 0",
A00C1201302031203220332034 <従属子> {"0", "1", "2", "3", "4"}},

```

8203322030 <対象体クラス> "2 0",
 8E0606 <利用者可視名> "書簡"},
 A632 <論理対象体> { --長さ= 50 bytes.
 020103 <対象体種別> <複合論理対象体>.
 312F <記述子本体> { --長さ= 47 bytes.
 41053320302030 <対象体識別子> "3 0 0",
 A00712013020312032 <従属子> {"0","1","2"},
 42053220302030 <対象体クラス> "2 0 0",
 8E0A1B2442"宛先"1B284A <利用者可視名> "宛先"},
 A633 <論理対象体> { --長さ=51 bytes.
 020104 <対象体種別> <基本論理対象体>.
 312E <記述子本体> { --長さ=46 bytes.
 410733203020302030 <対象体識別子> "3 0 0 0",
 A103120130 <内容部> {"0"},
 420732203020302030 <対象体クラス> "2 0 0 0",
 8E0C1B2442宛先_団体名1B284A <利用者可視名> "宛先_団体名"},
 A63B <論理対象体> { --長さ=59 bytes.
 020104 <対象体種別> <基本論理対象体>.
 3136 <記述子本体> { --長さ=54 bytes.
 410733203020302031 <対象体識別子> "3 0 0 1",
 A103120130 <内容部> "0",
 420732203020302031 <対象体クラス> "2 0 0 1",
 8E121B2442宛先_役名及び氏名1B284A<利用者可視名> "宛先_役名及び氏名"},
 A631 <論理対象体> { --長さ=49 bytes.
 020104 <対象体種別> <基本論理対象体>.
 312C <記述子本体> { --長さ=44 bytes.
 41053320302031 <対象体識別子> "3 0 1",
 A103120130 <内容部> {"0"},
 82053220302031 <対象体クラス> "2 0 1",
 8E0A1B2442"日付"1B284A <利用者可視名> "日付け"},
 A634 <論理対象体> { --長さ=51 bytes.
 020103 <対象体種別> <複合論理対象体>.
 312F <記述子本体> { --長さ=47 bytes.
 41032120332032 <対象体識別子> "3 0 2",
 A0031203302031 <従属子> {"0","1"},
 82053220302032 <対象体クラス> "2 0 2",
 8E0C1B2442発信者1B284A <利用者可視名> "発信者"},
 A637 <論理対象体> { --長さ=55 bytes.
 020101 <対象体種別> <基本論理対象体>.
 3132 <記述子本体> { --長さ=50 bytes.
 410C33201230201232201230 <対象体識別子> "3 0 2 0",
 A103120130 <内容部> {"0"},
 820532203020322030 <対象体クラス> "2 0 2 0",
 8E0C1B2442発信者_団体名1B284A <利用者可視名> "発信者_団体名"},
 A633 <論理対象体> { --長さ=51 bytes.
 020104 <対象体種別> <基本論理対象体>.
 312E <記述子本体> { --長さ=46 bytes.
 410733203020322031 <対象体識別子> "3 0 2 1",
 A103120130 <内容部> {"0"},
 820732203020322031 <対象体クラス> "2 0 2 1",
 8E0A1B2442発信者_氏名1B284A <利用者可視名> "発信者_氏名"},
 A63F <論理対象体> { --長さ=63 bytes.
 020103 <対象体種別> <複合論理対象体>.
 313A <記述子本体> { --長さ=58 bytes.
 41053320302033 <対象体識別子> "3 0 3",
 A22F <従属子> {"0","1","2"},
 82053220302033 <対象体クラス> "2 0 3",
 8E101B2442本体部1B284A <利用者可視名> "本体部"},
 A633 <論理対象体> { --長さ=51 bytes.
 020104 <対象体種別> <基本論理対象体>.
 312E <記述子本体> { --長さ=46 bytes.

410733203020332030 <対象体識別子> "3 0 3 0".
 A103120130 <内容部> {"0"},
 820732203020332030 <対象体クラス> "2 0 3 0",
 8E0A1B2442本体部_頭書1B284A <利用者可視名> "本体部_頭書"},
 A629 <論理対象体> { --長さ=41 bytes,
 020104 <対象体種別> <基本論理対象体>,
 3124 <記述子本体> { --長さ=36 bytes,
 410733203020332031 <対象体識別子> "3 0 3 1",
 A103120130 <内容部> {"0"},
 820732203020332031 <対象体クラス> "2 0 3 1",
 8E0A1B2442本体部_本体1B284A <利用者可視名> "本体部_本体"},
 A639 <論理対象体> { --長さ=41 bytes,
 020104 <対象体種別> <基本論理対象体>,
 3124 <記述子本体> { --長さ=36 bytes,
 410733203020332032 <対象体識別子> "3 0 3 2",
 A103120130 <内容部> {"0"},
 820732203020332032 <対象体クラス> "2 0 3 2",
 8E0A1B2442本体部_結語1B284A <利用者可視名> "本体部_結語"},
 A638 <論理対象体> { --長さ=56 bytes,
 020103 <対象体種別> <複合論理対象体>,
 3132 <記述子本体> { --長さ=50 bytes,
 41053320302034 <対象体識別子> "3 0 4",
 A00712013020312032 <従属子> {"0","1","2"},
 82053220302034 <対象体クラス> "2 0 4"},
 8E0A1B2442付属文1B284A <利用者可視名> "付属文"},
 A633 <論理対象体> { --長さ=51 bytes,
 020104 <対象体種別> <基本論理対象体>,
 312E <記述子本体> { --長さ=46 bytes,
 800733203020342030 <対象体識別子> "3 0 4 0",
 A103120130 <内容部> {"0"},
 820732203020342030 <対象体クラス> "2 0 4 0",
 8E0A1B2442付属文_頭書1B284A <利用者可視名> "付属文_頭書"},
 A63B <論理対象体> { --長さ=43 bytes,
 020104 <対象体種別> <基本論理対象体>,
 3126 <記述子本体> { --長さ=38 bytes,
 410733203020342031 <対象体識別子> "3 0 4 1",
 A103120130 <内容部> {"0"},
 820732203020342031 <対象体クラス> "2 0 4 1",
 8E0A1B2442付属文_本文1B284A <利用者可視名> "付属文_本文"},
 A62D <論理対象体> { --長さ=45 bytes,
 020104 <対象体種別> <基本論理対象体>,
 3129 <記述子本体> { --長さ=41 bytes,
 410733203020342032 <対象体識別子> "3 0 4 2",
 A103120130 <内容部> {"0"},
 820732203020342032 <対象体クラス> "2 0 4 2",
 8E0A1B2442付属文_結語1B284A <利用者可視名> "付属文_結語"},
 A33D <内容情報> { --長さ=61 bytes,
 310D <内容部属性> { --長さ=13 bytes,
 8409332030203020302030 <内容部識別子> "3 0 0 0 0",
 8605 <符号化形式> {iso6937}},
 142C <文章情報> --長さ=44 bytes,
 1B2442社団法人情報処理学会1B284A0D0A "社団法人情報処理学会"},
 A33B <内容情報> { --長さ=59 bytes,
 3136 <内容部属性> { --長さ=54 bytes,
 8409332030203020312030 <内容部識別子> "3 0 0 1 0",
 8605 <符号化形式> {iso6937}},
 1418 <文章情報> --長さ=24 bytes,
 1B2442研究会係 戸田駿1B284A0D0A },
 A32D <内容情報> { --長さ=45 bytes,
 310C <内容部属性> { --長さ=12 bytes,

840533203020312030 <内容部識別子> "3 0 1 0".
8605 <符号化形式> {iso6937}.
141D <文章情報> --長さ-29 bytes.
1B2442昭和6 1年1 1月7日1B284A0D0A }.
A330 <内容情報> { --長さ-48 bytes.
310E <内容部属性> { --長さ-14 bytes.
8409332030203220302030 <内容部識別子> "3 0 2 0 0".
8605 <符号化形式> {iso6937}.
141E <文章情報> --長さ-30 bytes.
1B2442日本ユニパック株式会社1B284A0D0A }.
A328 <内容情報> { --長さ-38 bytes.
310E <内容部属性> { --長さ-14 bytes.
8409332030203220312030 <内容部識別子> "3 0 2 1 0".
800100 <符号化形式> {iso6937}.
1414 <文章情報> --長さ-20 bytes.
1B2442若鳥陸夫1B284A0D0A }.
A34C <内容情報> { --長さ-76 bytes.
310E <内容部属性> { --長さ-14 bytes.
4007332030203320302030 <内容部識別子> "3 0 3 0 0".
800100 <符号化形式> {iso6937}.
143A <文章情報> --長さ-58 bytes.
1B24422121拝啓、貴会益々ご清栄のこと、お喜び申し上げます。1B284A0D0A}.
A35C <内容情報> { --長さ-92 bytes.
310E <内容部属性> { --長さ-14 bytes.
4007332030203320312030 <内容部識別子> "3 0 3 1 0".
800100 <符号化形式> {iso6937}.
144A1B2442 <文章情報> --長さ-74 bytes.
きて、早速ですが下記資料をご送付申し上げますので、ご査収ください。1B284A0D0A}.
A31F <内容情報> { --長さ-31 bytes.
310F <内容部属性> { --長さ-15 bytes.
4007332030203320322030 <内容部識別子> "3 0 3 2 0".
800100 <符号化形式> {iso6937}.
140C <文章情報> "敬具" --長さ-12 bytes.
1B2442敬具1B284A0D0A }.
A31C <内容情報> { --長さ-28 bytes.
310E <内容部属性> { --長さ-14 bytes.
4007332030203420302030 <内容部識別子> "3 0 4 0 0".
800100 <符号化形式> {iso6937}.
140A <文章情報> "記" --長さ-10 bytes.
1B2442記1B284A0D0A }.
A361 <内容情報> { --長さ-97 bytes.
310E <内容部属性> { --長さ-14 bytes.
4007332030203420312030 <内容部識別子> "3 0 4 1 0".
800100 <符号化形式> {iso6937}.
144F <文章情報> "同封資料" --長さ-79 bytes.
1B2442 1 2121同封資料: 0D0A
0D0A
マイクロコンピュータ研究会 (1 1 / 2 1) 講演予稿 2部1B284A0D0A}.
A330 <内容情報> { --長さ-48 bytes.
310E <内容部属性> { --長さ-14 bytes.
4007332030203420322030 <内容部識別子> "3 0 4 2 0".
800100 <符号化形式> {iso6937}.
141E <文章情報> --長さ-30 bytes.
1B2442以上1B284A0D0A "以上"}